

阪神高速事業アドバイザー会議 〔第13回〕

「2021年度決算報告」

2022年11月2日
阪神高速道路株式会社

目 次

1. 2021年度決算概要	1
2. 中期経営計画2021の達成状況	7
(阪神高速グループCSRレポート2022より)		

当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **2,179億円**（前年同期比+215億円）、営業利益 **34億円**（前年同期比+27億円）、経常利益 **36億円**（前年同期比+24億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は **26億円**（前年同期比+25億円）となりました
事業別の業績等の概要は、次のとおりです

高速道路事業

- ◆ 料金収入は1,703億円
（前年同期比6.4%増）（前々年同期比4.4%減）
※依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、その影響を大きく受けた前年同期を上回りました
- ◆ 道路資産完成高は320億円（前年同期比42.2%増）
- ◆ 道路資産賃借料は1,242億円（前年同期比3.5%増）
- ◆ 管理費用は442億円（前年同期比7.2%増）
- ◆ この結果、
営業収益は2,030億円（前年同期比10.8%増）
営業費用は2,005億円（前年同期比9.1%増）
営業利益は24億円（前年同期は営業損失6億円）
となりました

受託事業

- ◆ 国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、
営業収益は94億円（前年同期比24.7%増）
営業費用は94億円（前年同期比26.2%増）
- ◆ この結果、営業損失は70百万円
（前年同期は営業利益35百万円）となりました

その他の事業

- ◆ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、
営業収益は58億円（前年同期比0.4%増）
営業費用は47億円（前年同期比5.7%増）
- ◆ この結果、営業利益は10億円
（前年同期比18.0%減）となりました

高速道路事業

主な増減内容

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2022年3月期	2021年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,703	1,601	+101
	道路資産完成高 ^(注)	320	225	+95
	その他売上	6	5	+0
		2,030	1,832	+197
営業費用	道路資産賃借料	1,242	1,200	+41
	道路資産完成原価 ^(注)	320	225	+95
	管理費用	442	412	+29
		2,005	1,838	+166
高速道路事業 営業利益		24	▲ 6	+30

●営業収益

- ・通行台数は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、その影響を大きく受けた前年同期を上回り一日当たり約68.3万台（前年同期比6.8%増）（前々年同期比3.7%減）
- ・料金収入は1,703億円（前年同期比101億円増）（前々年同期比77億円減）

- ・道路資産完成高は、営業中路線の修繕工事等の完成等により、前年同期比95億円増の320億円

●営業費用

- ・協定に基づく道路資産賃借料は、前年同期比41億円増の1,242億円

- ・管理費用は、前年同期比29億円増の442億円

（注）道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます

1. 2021年度決算概要

関連事業

主な増減内容

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2022年3月期	2021年3月期	増減
受託事業	営業収益	94	75	+18
	営業費用	94	75	+19
	営業利益	▲ 0	0	▲ 1
その他の事業	営業収益	58	57	+0
	営業費用	47	44	+2
	営業利益	10	12	▲ 2
関連事業 営業利益		9	13	▲ 3

●受託事業
 大阪市道高速道路淀川左岸線に係る工事出来高の増等により、営業収益は前年同期比18億円増の94億円、営業費用は前年同期比19億円増の94億円となり、営業損失は70百万円（前年同期は営業利益35百万円）

●その他の事業
 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、営業収益は前年同期比0.2億円増の58億円、営業費用は前年同期比2億円増の47億円となり、営業利益は10億円（前年同期比2億円の減）

当期連結財務諸表の概要

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

連結貸借対照表			
区 分	2022年3月期	2021年3月期	増減
総資産	2,071	2,292	▲ 221
流動資産	1,538	1,755	▲ 217
(うち仕掛道路資産)	603	407	+196
固定資産	532	536	▲ 4
総負債	1,498	1,749	▲ 250
流動負債	328	450	▲ 122
固定負債	1,170	1,299	▲ 128
純資産	572	543	+29
株主資本	589	563	+26
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	384	357	+26
その他の包括利益累計額	▲ 16	▲ 20	+3

連結損益計算書			
区 分	2022年3月期	2021年3月期	増減
営業収益	2,179	1,963	+215
営業費用	2,144	1,956	+188
営業利益	34	7	+27
営業外収益	1	4	▲ 2
営業外費用	0	0	▲ 0
経常利益	36	11	+24
特別利益	0	0	+0
特別損失	2	2	▲ 0
税金等調整前当期純利益	34	8	+26
法人税等	8	7	+0
親会社株主に帰属する 当期純利益	26	0	+25

〔参考〕 阪神高速の交通量・料金収入の状況【2022年度上期】

2022年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
※ 交通量(台/日) 〔2019年同期比〕	698,451 〔95.4%〕	692,825 〔99.2%〕	715,255 〔107.4%〕	699,026 〔93.7%〕	702,437 〔94.9%〕	708,350 〔96.1%〕	702,648 〔97.6%〕
※ 料金収入【税抜】 (百万円) 〔2019年同期比〕	14,438 〔95.1%〕	14,896 〔99.1%〕	14,703 〔107.7%〕	14,892 〔94.0%〕	15,019 〔94.7%〕	14,561 〔96.2%〕	88,510 〔97.6%〕
ETC利用率	96.3%	96.3%	96.4%	96.3%	96.3%	96.4%	—

※2020年3月29日以降は、6号大和川線(7.7km)開通後の実績

〔新型コロナウイルス感染症による影響〕

・上期は緊急事態宣言等の行動制限がなく、2019年同期比では、4月から新型コロナウイルス感染症による影響は弱まり改善が見られた。また、7月、8月は感染者数の増加等による影響で5%強の減少となったが、9月はやや改善傾向が見られた

※6月は2019年の実績を上回っているが、これは2019年に開催されたG20大阪サミットによる大規模交通規制の影響によるもの

〔その他〕

- ・4/1～ 暫定車種間比率の終了に伴い、中型車と特大車の基本料金に変更
- ・6/1～ 14号松原線 喜連瓜破⇄三宅JCT間における約3年間の通行止めを開始

【特異事象】

2019年度

- 5月24日～6月3日 3号神戸線(湊川～京橋)でリニューアル工事により通行止め
- 6月27日～6月30日 G20 大阪サミットにより大規模交通規制
- 8月15日～8月16日 4号湾岸線・5号湾岸線の一部区間で台風10号の影響により一時通行止め

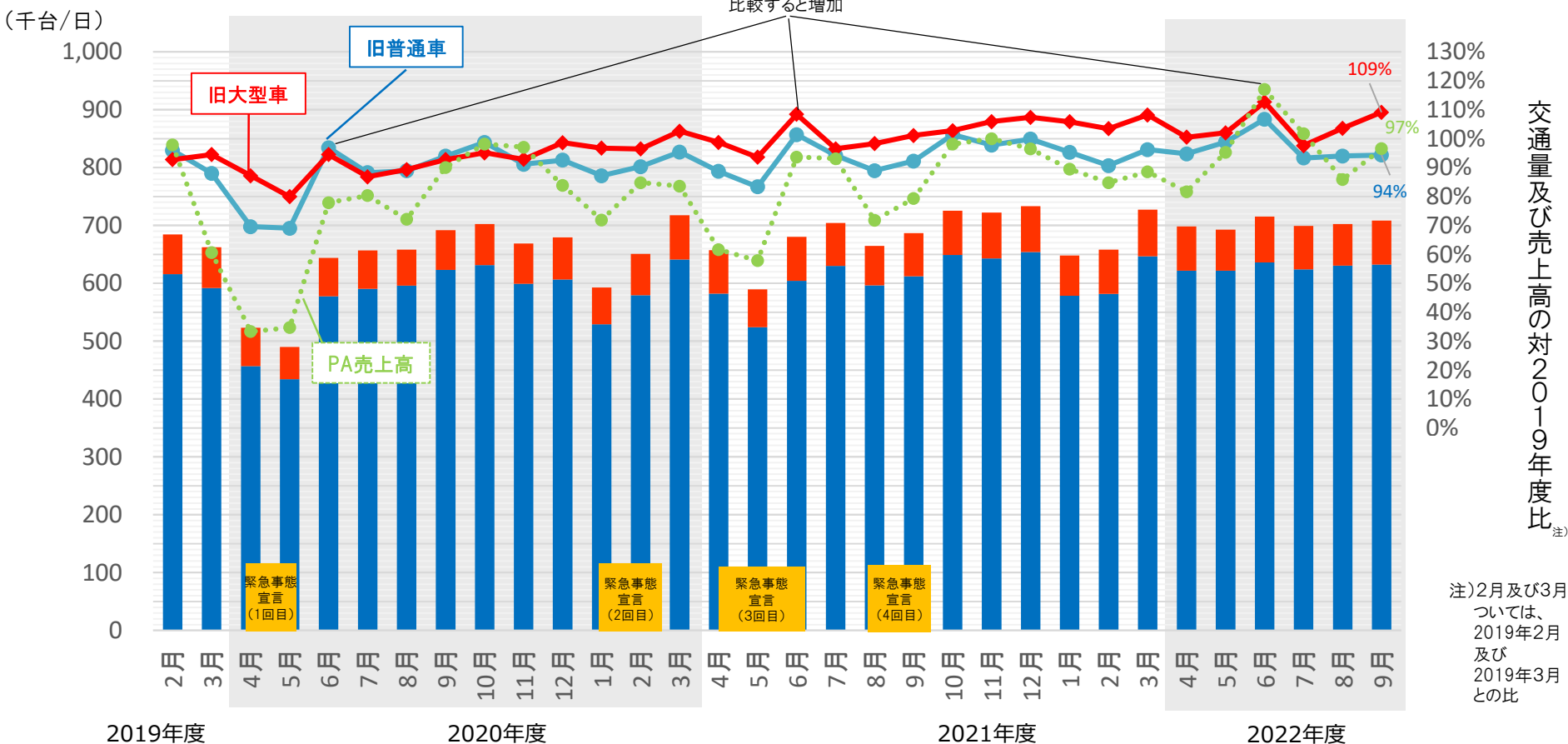
2022年度

- 4月15日～4月25日 3号神戸線(摩耶～芦屋)でリニューアル工事により通行止め

【参考】新型コロナウイルス感染症影響下における交通量等推移(2020.2月~2022.9月)

- 新型コロナウイルス感染症の影響により交通量やPA売上高が減少。特に緊急事態宣言期間で顕著
- 新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた期間においても旧大型車は旧普通車より落ち込みが小さい
- 2022年6月以降、喜連瓜破の通行止めや、再度の感染拡大の影響により交通量が落ち込んでいる

※ G20により交通量が少なかった2019.6月と比較すると増加



凡例	交通量 (左目盛り)	旧普通車: 軽・二輪、普通車、中型車	旧大型車: 大型車、特大車
	交通量及び売上高の対2019年度比 ^{注)}	旧普通車: 軽・二輪、普通車、中型車	旧大型車: 大型車、特大車
		PA売上高	

(参考)PA内店舗閉鎖期間
 泉大津PA(陸側) : 2020.3.10~2020.6.9
 中島PA : 2020.3.15~2020.4.30
 京橋PA : 2021.4.1 ~ 2021.5.16
 朝潮橋PA : 2021.9.1~

3. 中期経営計画2021の達成状況

中期経営計画(2020~2022)における重要テーマ

阪神高速グループは、2020年4月に「中期経営計画(2020~2022)」を策定し、阪神高速グループビジョン2030「6つのありたい姿」ごとに、以下の施策に取り組んでいます

重要テーマ1

最高の安全と安心を提供する阪神高速

- リニューアルプロジェクトの着実な推進
- 災害に強い阪神高速
- 交通安全対策の実施
- 良好な走行路面の確保
- 効率的な維持管理の実施

重要テーマ3

世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

- 新たな技術開発、先進技術の適用
- 自動車技術の進歩にも適応した先進的な交通運用技術の開発
- 卓越した技術力・ノウハウの持続的なイノベーション

重要テーマ5

関西の発展に貢献し、地域・社会から愛される阪神高速

- 社会経済活動の活性化や都市構造の強靱化
- 環境経営の推進
- 社会貢献活動による地域・社会の発展

重要テーマ2

もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

- ネットワーク整備や渋滞対策等による円滑な交通の実現
- より快適な走行を目指した情報提供の充実
- パーキングエリアの充実を始めとする新たなサービスの展開

重要テーマ4

お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

- 高速道路事業で培った技術・ノウハウを活用した事業展開
- 新たな事業等への積極的展開
- 国際事業の推進

重要テーマ6

経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

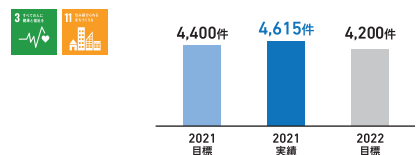
- お客さまをはじめとしたステークホルダーの声を反映した経営
- 信頼性の向上
- 働き方をかえる取組みの推進

中期経営計画 2020～2022の達成状況

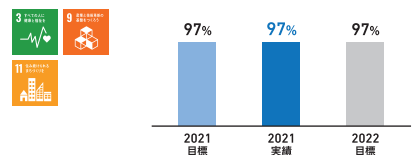
2021年度は、「阪神高速グループビジョン2030」を実現するための具体的な計画である「中期経営計画(2020～2022)」の確実な達成に向けた2年目として、重要テーマに即した各施策を着実に推進しました。引き続き、最終年度の目標達成に向けて注力するとともに、今後とも、経営環境の変化に対応し、お客さま満足の実現と関西のくらしや経済の発展に貢献すべく、さまざまな施策に取り組んでまいります。

重要テーマ1

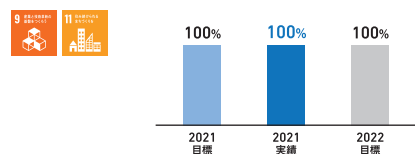
交通事故件数 **4,615件**



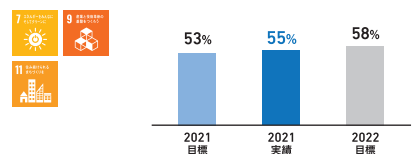
快適走行路面率 **97%**
(良好な非走行路面の割合) ※1



機能低下があり、対策を要する損傷の補修率 ※2 **100%**



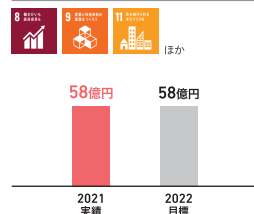
道路照明LED化率 (本線照明) **55%**



重要テーマ4

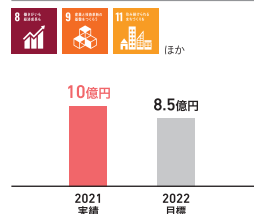
関連事業の
営業収益(連結)

58億円



関連事業の
営業利益(連結)

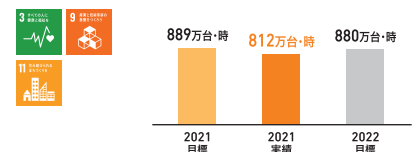
10億円



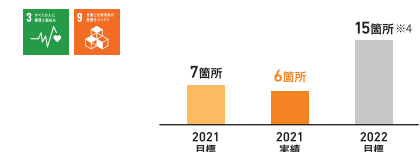
LED道路照明

重要テーマ2

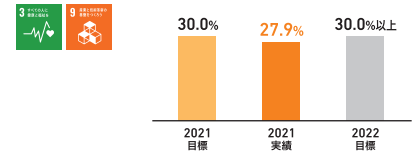
年間総渋滞損失時間 ※3 **812万台・時**



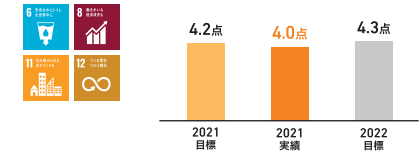
ETCお知らせアンテナ設置 **6箇所**



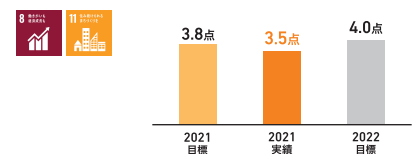
ETC2.0利用率 **27.9%**



各パーキングエリア
の提供サービス お客さま満足度(5点満点評価) **4.0点**



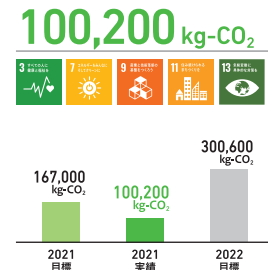
パーキングエリア数や
設置箇所 お客さま満足度(5点満点評価) **3.5点**



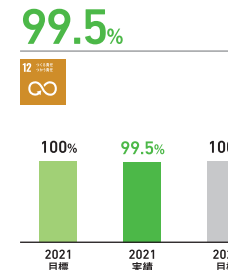
京橋パーキングエリア(テラス)

重要テーマ5

本線道路照明LED化によるCO₂排出の抑制量 ※5 ※6 **100,200 kg-CO₂**

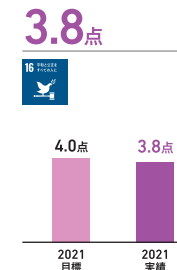


特定調達物品に
おけるグリーン調達率 **99.5%**



重要テーマ6

お客さま満足度
5点満点評価 **3.8点**



※1 快適に走行できる舗装路面の車線延長÷全車線延長

※3 渋滞が発生し走行速度が低下することによりお客さまが1年間に損失した時間の総和

※5 CO₂排出の抑制量は、関西電力株式会社2018年度調整後排出係数(0.334)に固定して算出

※2 損傷の補修率=(当該年度における修繕完了件数)/(当該年度計画上の修繕予定件数)(%)

※4 2021年からの2力年の累計

※6 2020年からの効果による効果